熊本大学教育実践研究　第37号，99－106，2020

ICT 教材を用いた性に関する指導の実践
～「命のつながり」をテーマとして～

山部真理*・秋月百合**

Sexual education with digital materials
～The theme is “connection of life”～

Mari YAMABE and Yuri AKIZUKI

はじめに

近年，グローバル化や情報化の急速な進展など，子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し，性情報の氾濫，未成年者の性感染症や人工妊娠中絶，性自認・性的指向等への正しい理解など，性に関する様々な今日的課題が指摘されている．また，いじめや不登校等の現状から，生命の尊さや人と人とのつながりの大切さについて改めて考えさせられるとともに，子どもたちが，命を大切にし，心身ともに健やかに成長していくためには，性に関する指導の充実がこれまで以上に重要であると考えられている[1]．

平成29年に小学校学習指導要領が改訂され，改訂の重点として「社会に開かれた教育課程の編成」「カリキュラム・マネジメントを確立し，教科等横断的な視点からの教育活動の改善」「主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善」などの重点が示された[2]．また学校において，コンピュータや情報ネットワークなどの情報手段及びこれらを日常的・効果的に活用するために必要な環境を整えるとともに，各教科等においてこれらを適切に活用した学習活動の充実を図ることや，視聴覚教材や教育機器などの教材・教具を適切に活用することの重要性が示されている[2]．熊本市では，学校への ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）機器の導入が進められており，平成30年度にすべての小学校に電子黒板やタブレットなどが配置された．平成31年度（令和元年度）には，すべての中学校にも同様に配置される．中でも筆者の勤務する小学校は先行導入校として，平成29年度に ICT 機器が先行配置された．

性に関する指導においては，子どもたちに多くの知識や情報を伝えたいあまり，教授型の授業になりやすく，子どもたちが主体的に活動する場面が少なくなる傾向にある．そこで「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち，先行導入されている ICT 機器を用いた性に関する指導の教材開発と授業実践を試みたので，ここに報告する．

授業の構築

1．実施校

本取り組みは，筆者の勤務校である熊本市立河内小学校において，4年生のクラスを対象に実施した．対象クラスの児童は24人，実施時期は2019年1月とした．

2．授業計画および指導案作成

1）題材について

実施校の性に関する指導学年別計画に則り，4年生の生命尊重の題材である「命のつながり」の授業を行うこととした．命が大切ということは知っているが，命が継承していくということについて考えたことがない子どもは多い．思春期の入り口にいる子どもたちに，命は継承することに気づかせ，その不思議さやつながりの大切さを考えさせることで，一人一人の子どもたちに命を大切にしようとする態度を育てることをねらいとした．

2）系統

小学校の性に関する指導における生命尊重の題材については，学級活動だけでなく生活科・道徳・理科と関連させながら学習する．低学年では植物や動物などの身近な生き物，赤ちゃんの成長，中学年では家族の愛情，命の大切さ，高学年では生命の誕生，将来の夢や生き方などについて系統的に学習する．4年生においては，2学期に体育科保健領域「育ちゆく体とわたし」の「思春期にあらわれる変化」で，思春期の体つきの変化，初経，精通，新しい命を生み出すための準備，などについて学習する．この学

＊ 熊本大学大学院教育学研究科院生，熊本市立河内小学校
＊＊ 熊本大学大学院教育学研究科

習を担任と養護教諭（筆者）による TT（チームティーチング）で行うことで，今回の授業とのつながりを持たせた．また授業後の保健指導や総合的な学習「２分の１成人式」などにもつなげ，学習に広がりを持たせた．

3）児童の実態

授業を行う４年生のクラスは，男子17人，女子７人，計24人の明るく元気なクラスである．やや幼さが残る印象であるが，男女の仲がよく，学習や学校行事などさまざまな活動に積極的に参加する児童が多い．体格的にやや小柄な児童が多いが，数名はすでに二次性徴を迎えており，保健「思春期にあらわれる変化」の授業で精通や初経について説明した際，自分の体験を照らし合わせて考えたり発言したりする児童も見られた．また，授業後に家庭で話をした児童や，保健室に個別に相談に来た児童も数名おり，思春期の身体の変化に対する関心の高さがうかがえる．さらに，最近妹が生まれた児童や，母親が妊娠中の児童もいるため，命や性に関する関心は高いと思われる．

4）授業の目標とめあての設定

今回の「命のつながり」の授業の目標を「命はつながっていることに気づき，命の不思議さやつながりの大切さに気づく」「命を大切にしようとする心情を育てる」の２点とした．また，本時のめあてを「命のふしぎを見つけよう！」とした．「ふしぎを見つける」というめあてを設定することにより，子どもたちに学習意欲を持たせ，主体的に学習する手立てとした．

5）ICT 教材開発

子どもたちが，お互いに対話しながら考え，主体的に活動する場面を設定するために，ICT 機器を使った教材開発を試みた．

命の不思議を見つけるための１つめの学習活動として，「おへそについて考える」という活動を設定した．さまざまな種類の動物を，おへそがあるものとないものに分けていくという活動の中で，おへその不思議に迫り，胎生の動物にはなぜおへそがあるのかという疑問から，命の始まりを考えるという次の学習活動につなげる．その「おへそについて考える」学習活動において，タブレット（**図１**）を用いた教材の活用を考えた．

図１　使用したタブレット

熊本市教育センターの ICT 支援員の協力を得て，タブレット用「MataMoji ClassRoom」というソフトを使って教材開発に臨んだ．このソフトを使うと，子どもたちがタブレットの画面上のイラストを自由に動かしながら考えることができる．また，タブレットを電子黒板に接続することで，全タブレットの画面を一斉に電子黒板に表示することができたり，タブレットの１つを拡大して全員で見たりすることができる（**図２**）．今回は15種類の動物のイラストを準備し，それらの動物を「おへそのある動物」「おへそのない動物」「わからない」の３つの枠の中に動かしながら分けていくという活動ができるようにした（**図３**，**図４**，**図５**）．

図２　タブレット画面を電子黒板に表示している様子

教材に使用するイラストについては，ICT 支援員と相談し，フリーのイラストを選定し，今後他の学級や学校でも，今回開発した教材を共有できるよう配慮した．

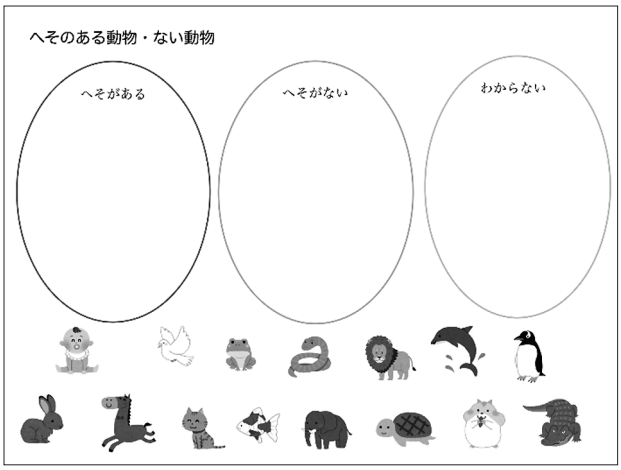

図３　画面例１

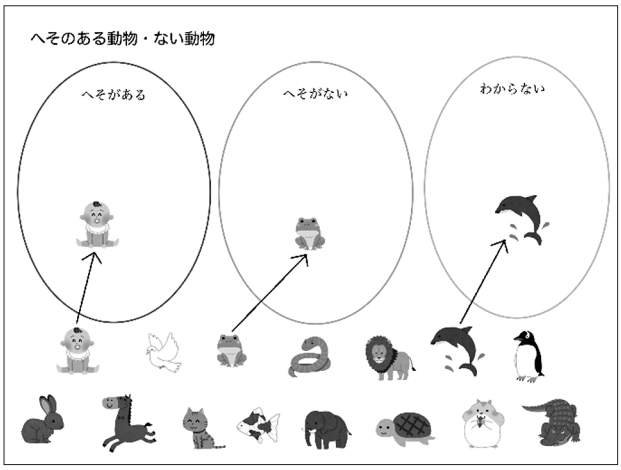

図４　画面例２

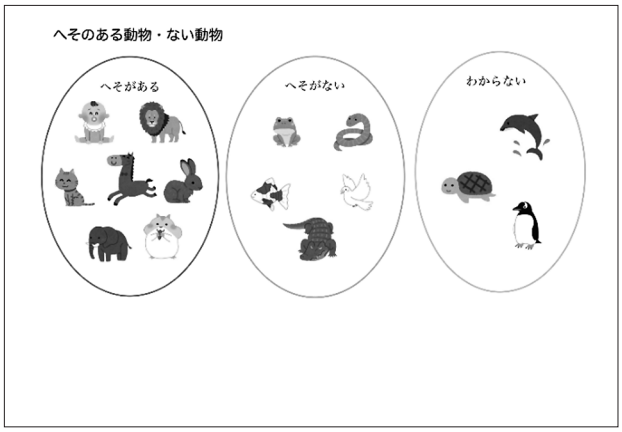

図５　画面例３

6）指導にあたっての留意点

今回の授業の目標を「命はつながっていることに気づき，命の不思議さやつながりの大切さに気づく」「命を大切にしようとする心情を育てる」の２点とし，以下の点に留意して授業を行うこととした．

- 児童の実態を十分に把握し，発育・発達段階に沿った指導内容になるようにする．
- ２学期に行った保健の学習で使用した教材を使うことにより，保健の学習と関連して考えさせ，自分のこととして考えさせる手立てとする．
- ICT 教材を活用することで理解を深めさせるとともに，児童に主体的に活動に参加させる．
- グループで活動する場面を通して，子ども同士の対話により考えを深めさせる．
- 胎児の成長については，カードやパネル，赤ちゃん人形などを使用し，視覚的に理解できるようにする．
- 絵本や詩を使用することで，命のつながりの大切さに気付かせる．
- 授業後の保健指導につなげ，児童の命についての疑問に答え，さらに学習を深める．
- 授業後に，「ほけんだより」で本時の取り組みについて紹介し，保護者への啓発を行う．

これらの留意点を踏まえて，指導案を作成した（**表１**）．

授業実践

１．実施日

2019年１月25日（金）　第５校時

２．対象

熊本市立河内小学校　４年１組　24人

３．授業の流れ

1）めあて

導入では，２学期に行った保健の授業を振り返った．保健の授業と同じ教材であるライフスケール（**図６**）を用い，生まれてから大人になっていくまでの成長や，今の自分たちが思春期という時期にいることを確認した．そして，これまでの学習の中で命についての疑問がいろいろと出ていたことを踏まえ，「今日のめあては，『命の○○○を見つけよう』です」と伝え，「○○○」に入る言葉を考えさせた．子どもたちからは「ひみつ」「ふしぎ」「大切さ」などの言葉が出され，その中から「ふしぎ」を選んで，本時のめあてを『命のふしぎを見つけよう』と設定した．ここでは，こちらから一方的にめあてを提示するのではなく，子どもたちの発言の中から一緒にめあて設定をするという工夫を行い，子どもたちの自主的に学ぶ意欲を引き出すようにした．その後「みんなの命の始まりは生まれたとき？」と問いかけると，「違う！」「お母さんのおなかの中！」という発言があり，「生まれる前はどうなっていたのか考えていこう」と伝え，次のおへそについて考える活動へつなげた．

2）おへそのふしぎ

子どもたちを４人ずつ６班に分け，班に１台ずつタブレットを配布した．全員にタブレットを配布してそれぞれ考えさせることもできたが，子どもたち同士が対話しながら考えることができるように，班に１台配布することとした．「MataMoji ClassRoom」で作成した教材画面を開かせ，電子黒板にも同じ画面を表示した．電子黒板で作業方法を説明した後，班ごとに話し合いながら15種類の動物を「おへそのある動物」「おへそのない動物」「わからない」の３つの枠の中に動かしながら分けていく活動を行っ

図６　ライフスケールの教材

た．子どもたちは「これ，どっちだろう？」「見たことないからわからん！」「これは，たまごで生まれるよね？」など班でいろいろな意見を交わしながら，タブレット上で動物を動かしていった（**図７**）．

図７　授業の様子

子どもたちがしっかりと考えることができるように，時間を十分に確保した．グループ分けが終了した班には，それぞれ「おへそのある動物」「おへそのない動物」のグループの特徴も考えるように指示した．その後，すべての班の結果を電子黒板に表示した．ひとつとして同じ答えはなく，興味深い結果となった．各班のタブレットの画面を電子黒板に拡大表示し，全員で確認していった．なぜこのようなグループ分けになったのかを尋ねると，すべての班が「卵から生まれるか，お母さんのおなかから生まれるかで分けた」と答えた．同じ基準で分けたにもかかわらず，全ての班で答えが異なるということも興味深く，さらに子どもたちの学習意欲を高めることができた．すべての班の発表後，電子黒板で答え合わせを行った．動物のイラストを１つずつ動かす度に，子どもたちからは歓声が上がった．おへそがある動物は，子どもたちが予想した通り「お母さんのおなかから赤ちゃんで生まれる動物である」ことを確認し，なぜ赤ちゃんで生まれてくる（胎生の）動物にはおへそがあるのかを次の活動で確かめることとした．

3）おなかの中の赤ちゃんのふしぎ

まず，小さな穴を開けた黒い画用紙を全員に配布した．「これ何？」「あ！穴が空いてる！」と子どもたちは画用紙を光にかざしていた．「これが，みんなの命の始まりだよ」と，穴の大きさは受精卵の大きさと同じであることを伝えると「え～？」「こんなに小さいの？」と驚く声が上がった．その後，胎児の実物大の成長パネルを使って，母親のおなかの中で大きくなっていく様子や胎児の体の機能が発達していく様子を学習した．胎児のパネルを１枚ずつ黒板に貼る度に，「お～，大きくなった！」「すごい！」と声が上がり，中には拍手をして胎児の成長を喜ぶ子どもも見られた．そして「子宮」「胎盤」「羊水」「へその緒」の働きとともに，胎児は母親からへその緒と胎盤を通して栄養をもらい羊水と子宮に守られて大きくなることを学習した．最後に赤ちゃん人形を登場させて子どもたちの関心をさらに引きつけ，赤ちゃん人形のへその緒を外し，その跡が「おへそ」であることを確認した．ここでは，パネルや赤ちゃん人形などたくさんの視覚的教材を活用することで子どもたちの興味関心を引きつけるとともに，理解しやすくする工夫を行った（**図８**）．母体内での胎児の成長を，拍手をするなど温かい雰囲気の中で興味を持って学習する子どもたちの姿があった．

図８　視覚的教材を使った授業風景

4）命のつながりのふしぎ

導入で使用したライフスケールに戻り，今自分たちは思春期にあるが，今後さらに成長し命を生み出す立場になること，すでに体の中でその準備が始まっていることを再度確認した．さらに，自分の命は両親から授かったものであり，両親にはそれぞれ祖父母がいることを確認し，「命って，どうなってる？」と尋ねると，「つながってる！」という答えが返ってきた．そこで，つながりについて考えるために「いのちのまつり」という絵本[3]を活用した．絵本を活用することで，自分の命がたくさんの先祖からつながっていることを視覚的に理解しやすくした（**図９**）．子どもたちからは「たくさんの人（先祖）

図９　「いのちのまつり」からの抜粋[3]

からつながってる」「先祖がいっぱいいる」などの声が聞かれた．さらに，相田みつをの「自分の番　いのちのバトン」という詩[4]を紹介した．詩の中の人数に該当する箇所を隠して印刷したものをワークシートで配布し，先祖の人数を予想させた（**図10**）．隠された具体的な人数を予想することで「何人だろう？」「100人くらいかな？」など，主体的に考えることができた．電子黒板にワークシートを映し，人数をみんなで考えていった．「父と母の両親で４人」「そのまた両親で８人」までは容易に答えることができたが，「10代前で1024人」と伝えると「え？」と驚き，さらに「20代前では…なんと100万人を超すんです」と伝えると「え～！！」「そんなにたくさん？」と驚きの声が聞かれた．具体的な数字で伝えることで，自分の命がたくさんの先祖からつながっていることを実感できたようであった．また，「みんなの命はたくさんの先祖からつながってきたものだけれど，もしその中の一人でも自分の子どもが生まれる前に病気や事故で亡くなっていたとしたら？」とたずねると「自分は生まれていない」と答えていた．「そうだね．一人でも欠けたらみんなは生まれてなかったね．そして，将来みんなの後にもさらに命がつながっていくんだね」と話すと一人の子どもが「責任重大…」とつぶやいた．自分までつながってきた命のつながりと，これから自分がつないでいくであろう命のつながりを実感して出た言葉だったのかもしれない．他の子どもたちも真剣に話を聞き，命のつながりについて考えていた．

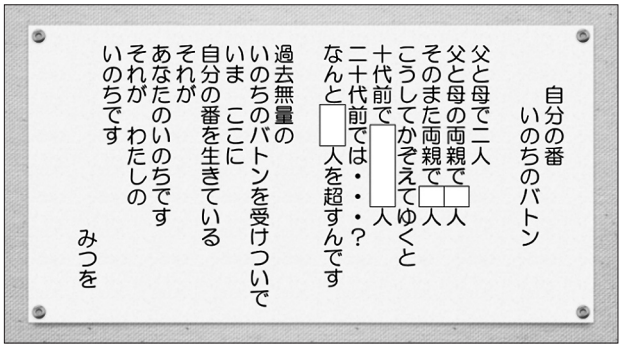

図10　配布したワークシート

４．授業後の感想

授業の最後に，今日の学習をした感想（わかったこと，考えたこと，思ったことなど）を書いてもらった．24人全員が，わかったことや初めて知ったことについて記入していた．疑問やもっと知りたいことを記入していた子どもは７人（29.2%），感じたことや考えたことを書いていた子どもは22人（91.7%）であった．

1）わかったこと・初めて知ったこと

最も多かったのは「母体内の胎児の様子」に関する記述であり，14人（58.3%）であった．具体的には「赤ちゃんは子宮で育つとわかった」「赤ちゃんはおなかの中で羊水に浮いていると知った」「へその緒を通してお母さんから栄養をもらっていることがわかった」「赤ちゃんが生まれる前に何をしているかがわかった」などの意見があった．

次に多かったのは「胎児の成長」に関する記述であり，13人（54.2%）であった．具体的には「最初は0.2㎜ととても小さくてびっくりした」「10ヶ月で50㎝も大きくなるなんてすごい」「赤ちゃんがおなかの中で育つスピードが速い」などの意見があった．

また，「へそのふしぎをいっぱい知れた」「お母さんのおなかで育つ動物はへそがあって，卵で生まれる動物はへそがない」など「へそのふしぎ」に関する記述が７人（29.2%），「20代前で100万人もの先祖がいると聞いてびっくりした」「自分が生まれるためにはたくさんの人が関係しているとわかった」など「先祖や命のつながり」に関する記述が５人（20.8%）であった．

2）疑問・もっと知りたいこと

疑問やもっと知りたいことは，「双子のことを知りたい」「双子や三つ子の時の子宮はどうなっているの？」など多胎妊娠に関する疑問や，「またふしぎを見つけたい」「いろんなふしぎを知りたい」「もっと知りたい」「次が楽しみ」などの意見があった．

3）感じたことや考えたこと

最も多かったのは「命のつながり」に関する記述であり，10人（41.7%）であった．具体的には「私たちよりずっと前の人が生きていたから生まれたんだなと思い，すごいなと思った」「みんなの命がつながっているんだなあと思ってふしぎだった」「先祖が一人でも欠けたら僕が生まれてないと考えると，命のつながりはすごい．命がこんなにつながっているなら，みんな親戚だなあと思った」「命はいつまでも続くんだなあと思った」「一人でも病気やけがで赤ちゃんを生む前に死んでいたら今の私はいなかったかも知れないから，責任重大だなと思った」などの意見があった．

次に多かったのは「命の大切さ」に関する記述であり，８人（33.3%）であった．具体的には「僕たちにはもう命のバトンが始まっているのがわかった．これを知って僕たちは責任重大というのがわかった．なので，事故とか病気にもかからず健康でいたいです」「自分が生まれてよかったと思った」「みんなの命を受け継いでいるから長生きしようと思った」「人は命がつながっているのだから，一人一人がす

ごく大事と思う」「自分が生まれるためには，た～くさんの人が関係しているとわかったので，自分の命を大切にしていきたい」などの意見があった．

また，「お父さんとお母さんがいないと自分は生きていない」「お母さんにありがとうの気持ちを伝えたい」など「親」に関する記述や，「将来自分で赤ちゃんを生むので，しっかり知っておきたい」「僕も命を大切にして，結婚して新しい命を作りたい」など「自分の将来」についての記述も見られた．他にも「自分のへその緒を見てみたい」「新しい命を生み出すには長い月日がかかり，お母さんも慎重におなかの中で育てなければならないんだなあとあらためてわかった」という意見もあり，子どもたちが様々なことを感じたり考えたりしたことがわかった．

5．授業後のフィードバック

授業実施の翌月，授業後の感想の紹介と多胎妊娠に関する疑問に答えるため，保健指導を行い授業の補足を行った．

また，保護者への啓発のため，授業内容と子どもたちの感想を載せた「ほけんだより」を作成し，全家庭に配布した（図11）．

考　察

今回は，新学習指導要領の重点の中でも「主体的・対話的で深い学び」の視点を重視して，授業実践を行った．

まず，めあてを子どもたちから出された言葉を用いて「命のふしぎを見つけよう！」とした．子どもたちの言葉を使ったことと，「ふしぎを見つける」という課題設定により，子どもたちの主体的に課題解決に向かう意欲を引き出すことができたと考えられる．感想にも「へそのふしぎをいっぱい知れた」「またふしぎを見つけたい」「いろんなふしぎを知りたい」という意見があることからも，「ふしぎを見つける」というめあての設定が有効であったといえる．

ICT 教材の活用は，今回初めての試みであった．「おへそのある動物」と「おへそのない動物」に分けるという活動で ICT 教材を活用したが，タブレット上のイラストを子どもが動かしながら考えることができることにより，自分の思考を視覚化しながら主体的に学習を進めることができた．さらに，個人ではなく班に１台のタブレットを使ったことにより，班の中で子どもたち同士の対話が生まれ，それぞれの意見を出し合いながら班で話し合い，学びを深め

4年生と「命」について学習しました！

命のつながり　１月２５日（金）に４年生と「命」についての学習をしました。テーマは「命のつながり」。*命のふしぎを見つけよう！* というめあてを立てて、授業をしました。

★おへそのふしぎ★

班でタブレットを使って、右の１５種類の動物を、おへそがある動物とおへそがない動物に分けていきました。それぞれのグループには共通点があります。その秘密を考えながら、おへそのふしぎにせまります！（４年生以外の学年も、２月の保健指導で同じ内容を学びます）

★おなかの中の赤ちゃんのふしぎ★

次に、おなかの中で赤ちゃんがどのように大きくなっていくかをみていきました。初めはたった０．２㎜の小さな受精卵が、お母さんから栄養をもらいながら約１０ヶ月かけて大きく育っていく様子を説明しました。だんだんと大きくなっていく赤ちゃんに、「大きくなった！」「すごい！」という歓声が上がり、温かい拍手をしてくれる子もいました。

★命のつながりのふしぎ★

最後に、相田みつをさんの「自分の番いのちのバトン」という詩を読んで、命のつながりについて考えました。自分の命は両親や祖父母などたくさんの先祖からつながってきていて、たった一人でも欠けていたら今の自分はいないこと。将来自分も子や孫に命をつないでいくこと。すでに思春期を迎えた自分たちのからだの中では、新しい命を生み出すための準備が始まっていることなどについて考えました。

自分の番
いのちのバトン
父と母で二人
その両親で四人
その両親で八人
つまり先祖代々をたどると
二十代前で百万人を超えます
なんと百万人を超えます
過去無量の
いのちのバトンを受けつぐ
自分の番を生きている
あなたのいのちです
みんなのいのちです
みつをと

＜授業の感想より＞

○今日はたくさん命のふしぎを見つけました。人は命がつながっているのだから、**一人一人がすごく大事**と思いました。
○**お母さんに、ありがとうの気もちを伝えたい**です。
○みんなの命を受け継いでいるから、長生きをしようと思いました。
○自分が**生まれてよかった**と思いました。
○先祖が一人でも病気やケガで赤ちゃんを産む前に死んでしまっていたら今の私はいなかったかもしれないから、**責任重大**だなと思いました。
○２０代前で１００万人もの先祖がいると聞いてびっくりしました。
○新しい命を生み出すには、長い月日がかかり、お母さんも慎重にお腹の中で育てなければならないと、改めてわかりました。
○僕たちには、もういのちのバトンが始まっているのがわかりました。これを知って、僕たちは責任重大というのがわかりました。なので、事故とか病気にかからず**健康でいたい**です。
○命のつながりで一人でも欠けたら僕が生まれないと考えると、**命のつながりはすごい**です。命がこんなにつながっているなら、みんな親戚だなあと思いました。
○赤ちゃんの卵の最初は０．２㎜だと聞きびっくりしました。でもそこからお腹の中で育つスピードが速かったです。
○赤ちゃんは、へその緒でお母さんから栄養をもらっていることがわかりました。
○お腹の中で赤ちゃんは水に浮いていることがわかりました。
○僕も命を大切にして、大人になって結婚をして、**新しい命を作りたい**です。
○命はいつまでも続くんだなあと思いました。
○自分の命のバトンは、**みんなの命でつながっている**んだなあと思ってふしぎでした。
○（将来）自分で赤ちゃんを産むので、しっかり知っておきたいです。
○自分が生まれるためには、た～くさんの人が関係しているとわかったので、**自分の命を大切にしていきたい**です。

「もっと命のふしぎを見つけたい」「双子のことが知りたい」「またやりたい。楽しみ。」という意見もありました。２月に双子のことについて、学習を続けたいと思っています。

１月～２月にかけて、全学年で「性に関する指導（命やからだ・こころについての学習）」を行っています。ご家庭でもぜひ話題にしてみてください♪

図11　配布した「ほけんだより」

ることができたと思われる．へその不思議に関する感想を3割近くの子どもが書いていたことや，「自分のへその緒を見てみたい」という感想が見られたことからも，子どもたちが「へそ」に関心を持って学習することができたことがうかがえる．一方的な説明や教師と子ども1対1のやりとりになりがちな性に関する指導において，ICT教材を活用することで子どもたち同士の対話や思考の深まりが期待できることが示唆された．ICT教材については，他の題材や他学年の指導にも活用できると思われる．

母体内での胎児の成長を説明する際には，胎児の実物大パネルや赤ちゃん人形などたくさんの視覚的教材を活用した．授業後の子どもたちの感想では，「母体内の胎児の様子」と「胎児の成長」に関する記述がどちらも5割を超えており，視覚的教材を活用することで子どもたちの理解が深まるといえる．ここではICT教材ではなく，パネルや赤ちゃん人形など実物と同じ大きさの教材を使った．そのことにより，よりリアルに胎児の成長を実感でき，「大きくなった！」「すごい！」といった歓声や，「10ヶ月で50㎝も大きくなるなんてすごい」「赤ちゃんがおなかの中で育つスピードが速い」などの感想につながったと考えられる．ICT教材やICT機器は大変有効であるが，1時間の授業の中で，どのような目的でどのような使い方をするのかをしっかりと考えて活用する必要があるといえる．

授業の中では筆者からは「命を大切にしよう」というように，命の大切さを直接子どもたちに伝える発言はあえてしなかった．しかし，絵本や詩などの教材を使って命のつながりについて考えさせたことで，子どもたちは「僕たちにはもう命のバトンが始まっている」「みんなの命を受け継いでいる」と命のつながりに気付き，「事故や病気にかからず健康でいたい」「長生きしよう」「生まれてよかった」「自分の命を大切にしたい」と命の大切さについて考えることができていた．さらに，「お母さんにありがとうの気持ちを伝えたい」という家族への感謝や「結婚して新しい命を作りたい」という自分の将来について考えることができた子どももおり，授業の流れや教材を工夫したことで，「命はつながっていることに気づき，命の不思議さやつながりの大切さに気づく」「命を大切にしようとする心情を育てる」という本時のめあてに迫ることができたと考える．

今回は，本授業の前に思春期の体の変化をテーマとする保健の授業を担任とのTTで実施しており，また本授業の後には，保健指導の時間の中で当該授業で子どもたちから出された疑問の解決に取り組んだ．保健の授業や保健指導と関連付けて取り組むことで，子どもたちのより深い学びにつながったと考えられる．このことは，新学習指導要領における「カリキュラムマネジメントを確立し，教科等横断的な視点からの教育活動の改善」の視点であり，多様な内容を他の関連教科とリンクさせながら学習する性に関する指導において，大切な視点であるといえる．

さいごに

学校現場では，ICT機器が次々に導入され，授業での活用が進んでいる．本取り組みは，性に関する指導の一場面におけるICT教材の活用であったが，子どもたちの主体的・対話的で深い学びにつなげることができたのではないか．今後も，子どもたちの実態や発達段階，授業の内容を考慮しながら，ICT機器の効果的な活用について考えていく必要がある．

性に関する指導は，子どもたちの健全な成長，幸せな未来に欠かせないものである．今後も子どもたちが命を大切にし，心身ともに健やかに成長していけるよう，実践を続けていきたい．

謝辞

本授業の実践においてご快諾とご協力を賜りました熊本市立河内小学校の先生方，ICT教材開発にご協力いただいたICT支援員の方，そして授業を受けてくれた児童の皆さんに，心より御礼申し上げます．

引用文献

1）熊本市教育委員会（2015），熊本市性に関する指導《指導案集》改訂版
2）文部科学省（2017），小学校学習指導要領解説総則編
3）草場一壽（2004），いのちのまつり「ヌチヌグスージ」，サンマーク出版
4）相田みつを（1984），「にんげんだもの」，文化出版局

表1　4年生「命のつながり」学習指導案

本時の学習

1　目標

・命はつながっていることに気づき，命の不思議さやつながりの大切さに気づく．

・命を大切にしようとする心情を育てる．

2　展開

	学習活動	時間	教師の発問・支援	備考
導入	1．保健の授業を振り返り本時のめあてを知る	5分	・今の自分たちが思春期という時期にいることを確認する ・「命の始まりは，生まれたとき？」 ・めあて『命の○○○を見つけよう』を提示し，○○○に入る言葉を考えさせる	ライフスケール
	命のふしぎを見つけよう！			
展開	2．おへそのふしぎを見つけよう ○おへそのある動物とない動物にわける ○それぞれのグループの特徴を考える	15分	・4～5人組の班を作り，班に1台タブレットを渡す．タブレット上で，15種類の動物をおへその有無でグループ分けさせる． ・「どうやってわけたの？」 ・「なぜ，赤ちゃんで生まれてくる動物にはおへそがあるの？」	電子黒板 タブレット ＜ICT 教材＞
	3．おなかの中の赤ちゃんのふしぎを見つけよう ○命の始まりであるとても小さな受精卵が少しずつ大きくなり，体の機能が発達していくことを知る ○おなかの中の様子を知る	10分	・小さな穴をあけた画用紙や，胎児の実物大のパネルを知る使用して，胎児が成長していく様子をわかりやすく説明する． ・母親から，胎盤とへその緒を通して栄養をもらい，子宮と羊水に守られて大きくなることを理解させる．	0.2mmの穴をあけた画用紙 胎児の実物大パネル 赤ちゃん人形
	4．命のつながりのふしぎを見つけよう ○自分の命は両親や祖父母などたくさんの先祖からつながってきたこと，これから自分も子や孫に命をつないでいくことに気づく ○命のつながりの大切さに気づく	10分	・絵本を活用し，自分の命がたくさんの先祖からつながっていることを視覚的に理解しやすくする ・詩を活用し，詩の中の数字を具体的に考えることによって，命のつながりをさらに実感し，命の大切さについて考えさせる	ライフスケール 絵本「いのちのまつり」 相田みつを「自分の番 いのちのバトン」 ワークシート
まとめ	5．学習を振り返る	5分	・命ってふしぎだなあ・すごいなあと思ったこと，もっと知りたいと思ったことを書いて，発表させる 【評価】命はつながっていることに気づき，命を大切にしようとする気持ちを持つことができたか．	ワークシート